

産業人材育成における非認知能力 —概念の整理へ向けた検討—

近藤菜月

名古屋大学

E-mail: kondou.natsuki@f.mbox.nagoya-u.ac.jp

本日の報告の目的

- 「非認知能力」は様々な学術領域+政策的言説をまたぐテーマであり、文脈によって、問題設定やモチベーションが異なる。
- 「非認知能力」について考えるとは何について考えることなのかを、いくつかの対立軸や境界を提示しながら明らかにする。
- 途上国（アフリカ）の労働者の特徴に照らして、既存の「非認知能力」概念を適用することの可能性と限界について考察する。

本日の内容

1. 「非認知能力」はどこから来た？
2. 「非認知能力」を測定・育成することについて
3. 狭義の「非認知能力」と広義の「非認知能力」
4. 教育言説にみる広義の能力観
5. 途上国の「労働者」の特徴
6. インフォーマルセクター労働者の「非認知能力」とは
7. まとめ

1. 「非認知能力」はどこから来た？

- 「非認知能力」「non-cognitive skills」という言葉が最初に用いられたのは社会学分野（Bowles & Gintis 1976）。現在もこの言葉を直接用いて活発な研究がなされているのは、主に教育経済学分野（Heckman & Rubinstein 2001）
- 個人の経済的成功、労働市場における成功、職業や富の分配において、従来注目されていた「認知能力」だけでは説明できず、「非認知能力」が大きい影響力を持っているという想定。
- 「非認知能力」を育成することで、個人の生産性が向上し、ひいては社会全体の（主に経済的）発展が期待できるという想定。

2. 「非認知能力」を測定・育成することについて(1)

- 何かを測定し、その結果を教育プログラムなどの実践・政策に役立てるためには、①「測定結果が数量として与えられ」、②「望ましい値が合意されている」ことが条件となる（大谷 2019）。
- ①「測定結果が数量として与えられ」るか？
 - 経済学などの実証的研究では、従来心理学分野でパーソナリティや資質の分類の診断に用いられていたツールを、非認知「能力」を測るスケールとして使用。
 - ただし、これらのツールは心理学分野では通常、値がどうなるのが「望ましい」かという価値判断と結びつけることは少ない。結びつけられたとしても、経済的・社会的「成功」との関連付けはされない。

2. 「非認知能力」を測定・育成することについて(2)

- ② 「望ましい値が合意されている」か？
 - 「望ましいアウトカム」に対する影響力の大きさ。
 - 「望ましいアウトカム」とは：経済学的研究では個人の経済的成功（持ち家などの所有物含む）、労働市場における成功（正規雇用の有無や給料）等。
 - 「自己規律性」や「勤勉性」のような、「生産性に寄与することが期待できる」資質（李 2014)

認知能力

（従来の「人的資本論」で扱われていた要素）

非認知能力

（左以外すべて。ただし「生産性向上に寄与する」ものに焦点）

アウトカム（個人）：収入、正規雇用、持ち家、犯罪率の低さ、昇進
連続的

アウトカム（社会）：経済成長、社会課題の解決（失業率や貧困等）

3.狭義の「非認知能力」と広義の「非認知能力」

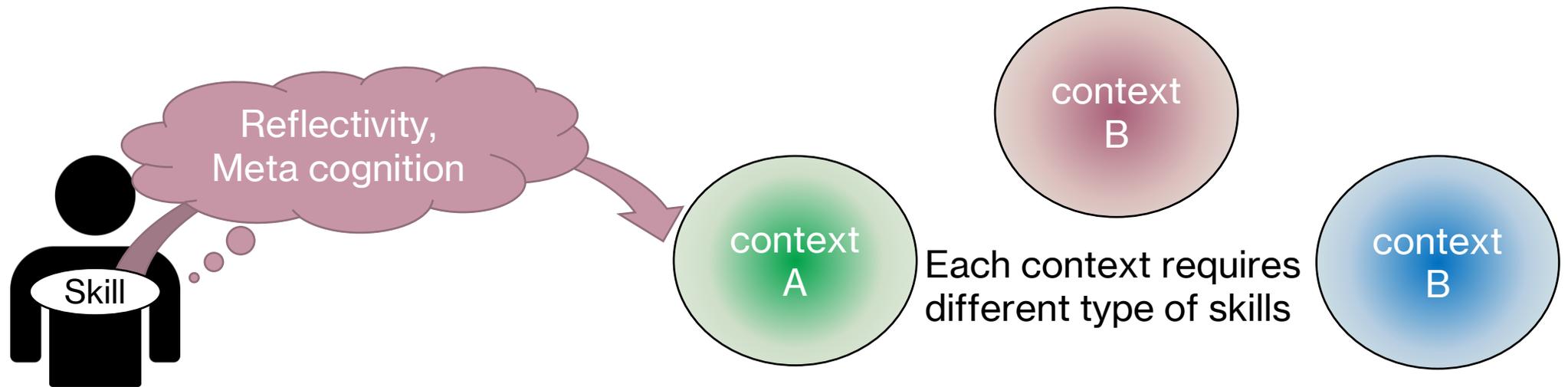
- 「望ましいアウトカム」と「非認知能力」をめぐる疑問
 1. アウトカムは、生産性や労働市場における成功といった、経済的価値を中心とし、垂直的序列を前提とする従来型の成功指標で適切なのだろうか？
 2. 「非認知能力」は、生産性や合理性、効率に寄与する、近代的価値に基づく内容に焦点が置かれている。これは適切なのだろうか？
- 上の問いは、途上国の労働者を対象とした場合にも重要となる（後述）。
- 教育学領域や国際機関主導の教育言説における「非“認知能力”」関連の議論は、従来の成功指標と能力観の問い直しに至る、より広範な射程に立って展開されている。

4.広義の「非認知能力」(1)国際的な教育言説

- 1990年代以降、世界中の教育目標に様々な「新しい能力」概念が登場
 - OECD(2015)の社会情緒的スキル(socio-emotional skills)、OECD=DeSeCoのキーコンピテンシー*1、NRCの21世紀型コンピテンス、21世紀型スキル、CCRのコンピテンシー*2
 - これらの能力概念は、認知能力群+非認知能力群の包括的なモデル（山田・近藤 2021 刊行予定）
- 社会の変化が加速する中で生涯にわたるwell-beingを達成するためのスキル
- 経済合理性・生産性だけでなく、民主的プロセス、連帯と社会的結合、人権や平和、公正、生態学的持続可能性、複数の社会的価値の対立の調停、現状への批判的スタンスといった事柄が視野に収められている（松下 2016）
- 特に*1と*2に関しては、諸能力を個人が獲得する構成要素としてではなく、「メタ認知」や「省察性」を通して状況毎に組み替えられるものとされ、「個人の内的属性と文脈の要求との相互作用」を射程に含めている（同上）

4.広義の「非認知能力」(2)学習論の変化

- 行動主義→構成主義への変化：
 - 知識の価値中立性・客観性を否定
 - 【心理的構成主義】個人の主観的・認知プロセスよる能力の発現の変化、【社会的構成主義】文脈による能力や知識の発現の仕方・要求の変化（中村 2007）。
- 越境的学習論
 - ある文脈において獲得した技能を「脱文脈化」し、他の文脈の様式を理解した上で、そこに技能を「再文脈化」させる＝「異なる文脈の間を動き回る能力」（レイヴ&ヴェンガー 1991=1993）
 - 越境するアクターに焦点を当てる視点（香川 2011）



「非認知能力」の議論にみる対立軸

分野	対立軸	アウトカム	「非認知能力」の内容		議論の枠組み	具体的研究例
		アウトカムの捉え方	対象とする範囲	能力の文脈的依存度	社会の変化について加味する度合い	
経済学		狭義、垂直的、一元的	限定的	脱文脈的	低	Heckman& Rubinstein (2001), Bowles & Gintis(2001)
教育社会学		狭義、垂直的、一元的	やや限定的	文脈的	中	本田(2015),Bowles & Gintis (1976),刈谷(1988)
心理学		-----	広範	脱文脈的	低	李嬋娟(2014),西田・久保田(河本)・利根川・遠藤利彦(2019)
国際機関の教育言説		やや広義、水平的、多元的	やや広範	脱文脈的(一部文脈的)	中	OECD(2015), 松下(2016)
教育学		広義、水平的、多元的	広範	文脈的	高	香川(2011), 佐伯(2014), 中村(2007)

5. 途上国の「労働者」の特徴(1)

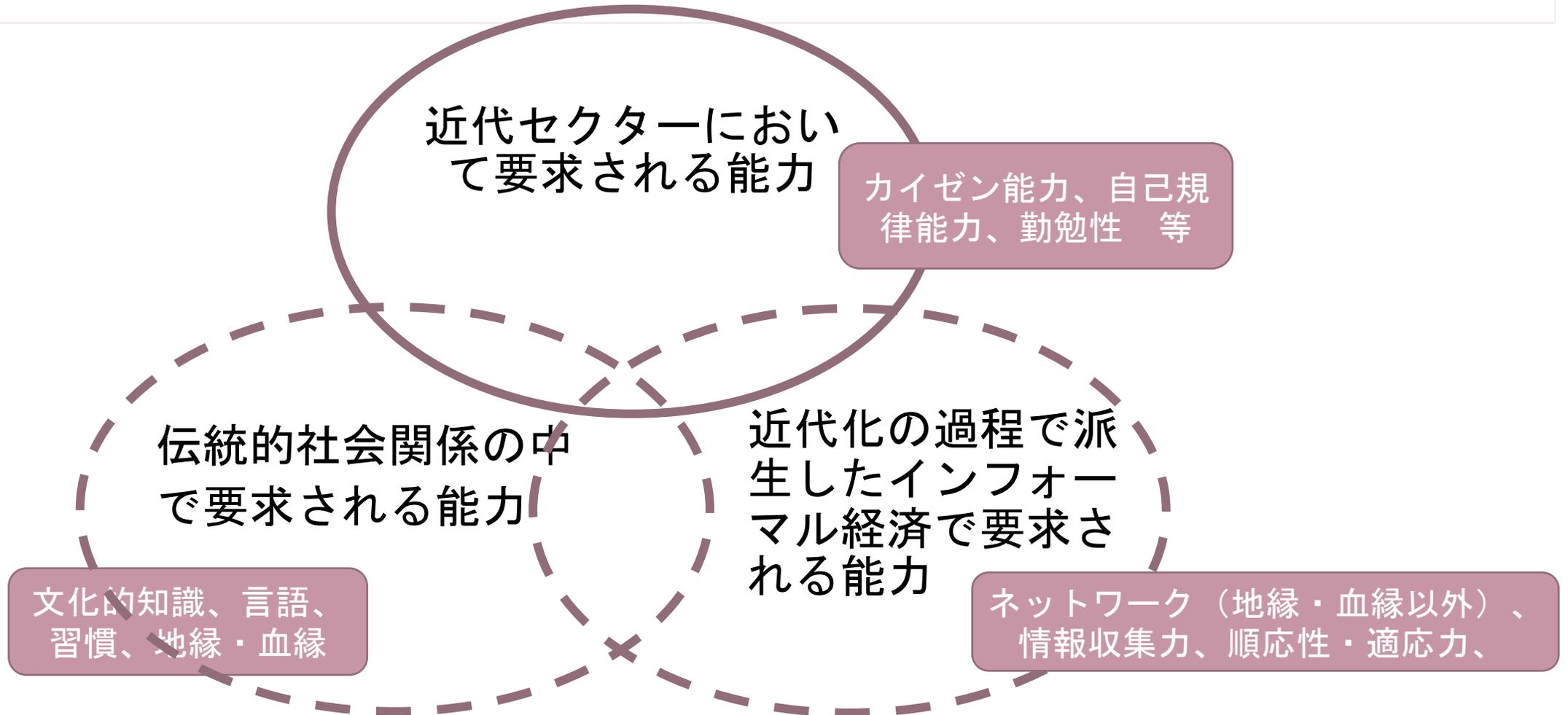
- 経済学や社会学の実証的論文では、高い給料、正規の安定した雇用、持ち家の有無、フォーマルセクターでの雇用といった要素が「望ましいアウトカム」であると前提した議論がなされている。
- 途上国の労働力・雇用の大部分をインフォーマルセクターが占める。世界の労働人口の61%はインフォーマルセクターで働いており、アフリカでは雇用の85.8%はインフォーマルセクターにおける雇用、そしてインフォーマルセクターの雇用のうち93%は新興国及び途上国に占められる(ILO 2018)。
- フォーマルセクターとインフォーマルセクターの政策的断絶
 - 職業訓練分野の政策がフォーマルセクターに偏っている (Palmer 2009)
 - 非認知能力関連の訓練も、フォーマルセクターで生産性を向上させるためのプロジェクトが中心 (カイゼンなど)

5. 途上国の「労働者」の特徴(2)

- 複線的・越境的・状況対処的なインフォーマルセクター労働者の実践
 - 「脆弱で、フォーマルセクターにありつけなかった不遇の労働者」ではなく、「起業精神を持つ人々であり、経済発展を刺激し、雇用を生み出す可能性を持つ人々」ととらえる (Sparks & Barnett 2010; 小川 2016)
 - 様々な職業経験を複線的・多角的に積み、人間関係のネットワークを構築して状況に応じて可能性を模索する (小川 2016)
 - 同じ職業分野内であっても、非線形的に経験を積む
 - フォーマルセクターとインフォーマルセクターを行き来する学習者 (自動車修理関連分野) の存在 (山田 2017)
 - 様々なワークショップに出入りすしてリスク分散する個人事業主 (山崎報告)
 - 文化的スキル
 - リソースとしてのコミュニティにおける伝統的リーダーシップ (報告者のフィールドワークより)
 - アフリカのコミュニティにおいて尊敬を集める“教養”の様式 (山田 2016)

途上国の労働者の多くは、様々な異なる非認知能力を要求する諸文脈に適応・再適応しながら不確実性の高い状況への対処能力を高めている。

6. 可視化されつつある非認知能力と潜在的な非認知能力



6. 途上国の労働者の「非認知能力」をどう捉えるか

- 彼らにとって、「望ましいアウトカム」とは？
 - 既存の「成功」指標とのズレ：必ずしも正規雇用を目指していない、単線的積み上げよりも複線的な多角化をめざす、経済的合理性を必ずしも追求しない（目標収入）
- 途上国の労働者の実践は、近代的な生産性や成功観からみると非合理的かもしれないが、ローカルな・主観的な合理性を有している可能性がある。
- 途上国における「非認知能力」について、次の2つの方向性に基づく探究が必要。
 - 特定の文脈ごとの「評価される能力、要求される能力」を明らかにしたり比較したりするシステムオリエンテッドな研究
 - 文脈を越境する個人に着目し、途上国におけるそのありようを描き出すアクターオリエンテッドな研究

まとめ

- 「非認知能力」の議論は、多くの学術分野にまたがっている。
- 従来の成功観や能力観の問い直しにも至る議論と関連する一方、実証的なレベルでは、従来型の経済的合理性に基づく成功指標をアウトカムとし、それに寄与する資質を数量的に捉えようとする枠組みが殆どである。
- ここでの「アウトカム」と「非認知能力」の捉え方が、インフォーマルセクターの労働者が大部分を占める途上国において適当であるかは疑問である。
- 途上国の労働者の日々の実践を支える能力を捉えようとするならば、先進国を中心に議論される「非認知能力」の前提にある価値観や枠組みを問い直し、途上国社会の日常の中で行使される非認知能力を可視化していくことも、一つの研究の方向性としてあり得る。

文献1

- 遠藤利彦. (2017). 非認知的 (社会情緒的) 能力の発達と科学的検討手法についての研究に関する報告書. 国立教育政策研究所. 平成 27 年度プロジェクト研究報告書, 初等中等教育, 31, 1-281.
- 大谷尚 (2019) 『質的研究の考え方：研究方法論からSCATによる分析まで』名古屋大学出版会.
- 小川さやか (2016) 『その日暮らしの人類学』光文社新書.
- 香川秀太 (2011) 「状況論の拡大—状況的学習、文脈横断、そして共同体間の「境界」を問う議論へ」『認知科学』第18巻第4号、pp.604-623。
- 勝野頼彦 (2013) 『教育課程の編成に関する基礎的研究報告書5社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則』国立教育政策研究所
- 苅谷剛彦. (1988). 「能力主義」に囲まれて. 教育社会学研究, 43, 148-162.
- 清水禎文. (2012). ジェネリック・スキル論の展開とその政策的背景. 東北大学大学院教育学研究科研究年報, 61(1), 275-287.
- 中村恵子 (2007) 「構成主義における学びの理論—心理学的構成主義と社会的構成主義を比較して」『新潟青陵大学紀要』第7巻第7号、pp.167-176。
- 西あゆみ, & 加藤真紀. (2017). 複数の学術領域におけるコンピテンス概念把握の試み. 森有礼高等教育国際流動化機構 working paper series.
- 西田季里, 久保田(河本)愛子, 利根川明子, & 遠藤利彦. (2019). 非認知能力に関する研究の動向と課題: 幼児の非認知能力の育ちを支えるプログラム開発研究のための整理. 東京大学大学院教育学研究科紀要, 58, 31-39.
- 本田由紀. (2005). 多元化する「能力」と日本社会: ハイパー・メリトクラシー化のなかで (Vol. 13). NTT 出版.
- 本渡葵. (2017). DeSeCo のキー・コンピテンシー" Reflectivity" の考察:" Defining and Selecting Key Competencies" における Kegan の Scholarly Comments を中心に. 広島大学大学院教育学研究科紀要. 第一部, 学習開発関連領域, (66), 95-101.
- 松下佳代. (2016). 「<センター教員・共同研究論考> 資質・能力の新たな枠組み—「3・3・1モデル」の提案—」『京都大学高等教育研究』
- 山田肖子・近藤菜月「知識基盤社会における「能力」—政策言説、実社会、学習論の変化から」山田肖子・大野泉（編）『途上国の産業人材育成』日本評論社、第2章（2021年1月刊行予定）。
- 山田肖子 (2017) 「学習者が学び取る職業教育パス：ガーナ国クマシ市の職業教育訓練機関における自動車修理関連分野の生徒に対する質問票調査から」『アフリカ研究』91: 1-16.
- 山田肖子. (2016). 解釈する能力と情報を反復する能力: アフリカ伝統社会での教育からの投影 (特集 アフリカにおけるリテラシーと技能). アフリカ教育研究, (7), 57-66.
- 李嬋娟. (2014). 非認知能力が労働市場の成果に与える影響について. 日本労働研究雑誌, 650, 30-43.

文献2

- Boland, N. (2015). OECD's Skills for social progress: The power of social and emotional skills [Book review]. The International Journal of Emotional Education, 7(1), 85-86.
- Bowles, S., Gintis, H., & Osborne, M. (2001). The determinants of earnings: A behavioral approach. Journal of economic literature, 39(4), 1137-1176.
- Bowles, S., & Gintis, H. (1976). Schooling in Capitalist America . New York. Basic Books
- Dore, R. P. (1978). The Diploma Disease: Education, Qualification and Development. (松居弘道 訳 『学歴社会-新しい文明病』 岩波現代新書, 1978 年).
- Dragonas, Thalia and Kenneth J. Gargen and Shelia McNamee and Eleftheria Tseliou (Ed) (2015) Education as Social Construction: Contribution to Theory, Research and Practice. A Taos Institute Publication.
- Graeber, David 2004. Fragments of an Anarchist Anthropology. Chicago: Prickly Paradigm Press (高祖岩三郎訳 『アナキスト人類学のための断章』 以文社、2006年)
- Heckman, J. J., Stixrud, J., & Urzua, S. (2006). The effects of cognitive and noncognitive abilities on labor market outcomes and social behavior. Journal of Labor economics, 24(3), 411-482.
- Heckman, J. J., & Rubinstein, Y. (2001). The importance of noncognitive skills: Lessons from the GED testing program. American Economic Review, 91(2), 145-149.
- John, O. P., & Srivastava, S. (1999). The Big Five trait taxonomy: History, measurement, and theoretical perspectives. Handbook of personality: Theory and research, 2 (1999), 102-138.
- OECD, O. (2015). OECD Skills Studies: Skills for Social Progress: The Power of Social and Emotional Skills. OECD Publishing.
- Palmer, R. (2009). Skills development, employment and sustained growth in Ghana: Sustainability challenges. International Journal of Educational Development, 29(2), 133-139.
- Young, Michael (1958) The Rise of Meritocracy, Transaction Pub. (窪田鎮夫・山元卯一郎 (訳) 『メリトクラシー』 至誠堂、1982年)
- Lave, Jean and Etienne Wenger (1991) Situated learning: Legitimate peripheral participation, Cambridge University Press. (佐伯胖訳 『状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加—』 産業図書、1993年)
- Sparks, D. L., & Barnett, S. T. (2010). The informal sector in Sub-Saharan Africa: out of the shadows to foster sustainable employment and equity?. International Business & Economics Research Journal (IBER), 9(5).
- ILO (2015) "Recommendation No. 204 concerning the Transition from the Informal to the Formal Economy" https://www.ilo.org/wcmsp5/groups/public/---ed_norm/--relconf/documents/meetingdocument/wcms_377774.pdf (2020/11/29)
- ILO (2019) "The informal economy in Africa: Promoting transition to formality: Challenges and strategies" https://www.ilo.org/wcmsp5/groups/public/---ed_emp/---emp_policy/documents/publication/wcms_127814.pdf (2020/11/29 閲覧)